



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〔第三四〇号〕

立春 りっしゅん

二月三日

梅の力

暦の上の春、立春が今年は一日早い二月三日と話題になっています。今年春の訪れが早いのでしょうか。梅のつぼみが早くからふくらみ、二つ三つと花を咲かせています。

梅というと、元号の令和が『万葉集』の「梅花の歌三十二首」の序文が採られたことで話題となりました。その考案者と目される中西進さんは著書に、「梅の力」を知ったのは、鎌倉時代、曹洞宗を開いた禅僧、道元どうげんの『正法眼蔵しょうぼうげんざう』の「梅花」という一節であったと記しています。「道元が自然の秩序を整えるものを、一年中の花の中で最初に咲く梅の花の力にあると考えたことに圧倒された」。(『道元を語る』二〇〇三年より)

季節が春になるとまっさきに咲く梅の花の力によって、春夏秋冬の四季が順序よくやってくる。風が吹くのも、雨が降るのも、これ梅花力なり、という着眼点に感銘を受けたことが伝わってきます。つまり、梅花は香りがよく、美しいだけでなく、何より一年で最初に咲くことがこの花の素晴らしさということなのでしょう。

私も好きな白梅があります。五十鈴川浴いの「とうふや」の前庭に咲く白梅です。「とうふや」が開店した平成十三年、もともとは井戸が作られています。しかし、井戸の部分にコンクリートが残っていたこともあり、根付く前に木が弱っていたところを、植木屋さんが、「百年からの古木で、何としても生き返らせましょう」と手入れを続け、二年目に三輪の花が咲いたということです。なかなか根付かないこともあって、花が咲いた時には感動しましたと、当時を知る人に教えてもらいました。内宮前にまっさきに春を告げる白梅です。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○『おかげ横丁 ひなまつり』

平安時代から受け継がれてきたひなまつり。

桃の花や可愛らしい飾りで彩られ、いつもより華やかになり、心浮き立つおかげ横丁で、桃の節句をみんなで祝い、女の子の健やかな成長を祈る催しを楽しんでください。

と き／2月20日(土)～3月3日(水) 10:00～17:00 (催しによって異なります)

ところ／おかげ横丁一帯

※雨天および諸事情にて、中止または内容が一部変更になる場合がございます。

● 桃の節句市

かわいらしい雛人形や雛飾りの他、雛あられなどのひな菓子を揃えた市です。節句を祝うにかかせない色とりどりの商品を集めました。

と き／2月18日(木)～3月3日(水) 10:00～17:00

ところ／赤福別店舗

● 旧家に伝わるお雛様とつるし雛飾り

旧家に代々伝わる雛人形の展示と、手作りのつるし雛を飾ります。

と き／2月20日(土)～3月3日(水) 10:00～17:00

ところ／伊勢路名産味の館2階「大黒ホール」

● 苔テラリウムづくり

ひな人形には、おひな様に女の子の穢れを移し厄災を身代わりになってもらうという意味が込められています。

苔テラリウムづくり体験では苔、植物とミニおひな様を飾り自然の風景を作ります。

と き／2月20日(土)～23日(火) 9:30～17:00

ところ／おかげ横丁「孫の屋三太」前 特設屋台

参加費／苔テラリウムづくり 3,000円(税込)～

苔玉づくり(苔玉雛) 4,000円(税込)～

盆栽づくり 3,000円(税込)～

五十鈴塾

○ 宇治と山田の自治組織

室町時代に自治都市として発展した山田の自治組織を山田三方といい、伊勢神宮関係の有力者の勢力を拜して山田三方会合所という役所を設け山田の町政を担うようになりました。一方宇治は宇治六郷という惣が作られ、宇治会合年寄という組織が統括しました。

その昔は宇治と山田はそれぞれに外宮内宮を要し、ことあるごとにもめごとが絶えず、宇治山田合戦という戦まで引き起こし、挙句の果ては外宮が炎上するという騒ぎにまで発展しました。簡単に言えば参宮客の取り合いですが、これに国司の北畠が介入して泥沼状態となったのです。ことほどきように仲の悪かった宇治と山田、自治組織はどんな役割を果たしたのでしょうか？じっくりとお話していただきます。

と き／2月10日(水) 18:30～20:00

講師／山中 一孝(豆腐庵山中代表取締役)

参加費／一般1,350円 会員 850円

場所／五十鈴塾右玉舎

講座についてのお問い合わせ・お申込み／電話0596-20-8251

五十鈴茶屋

○ 節気菓子

はる おとす

春の訪れ

陽ざしの温もりとともに梅の便りが聞かれる頃です。

香り高く春を待つ梅の花を外郎(ういろう)生地に写しました。あっさりとした味わいをお楽しみ下さい。

しらたまつばき

白玉椿

椿の中でも最も白く清楚に咲く白玉椿です。

山芋を使った生地でこし餡を包み、風格ある薯蕷まんじゅうに仕上げました。

そうしゅん

早春

春めく大地を思い浮べるように村雨生地と羊羹の間に若草色のそぼろを重ね、芽吹きを想像しました。生地の食感をお楽しみ下さい。